

特集：実用的 e ラーニング環境の構築と運用

同期・非同期を組み合わせた家庭用 e ラーニングシステムが中学生の成績に及ぼす効果

岡田 行弘*, 永見 良介*, 富永 敦子**, 向後 千春***

Effects of At-home Asynchronous and Synchronous e-Learning on Performance among Junior High School Students

Yukihiro OKADA*, Ryosuke NAGAMI*, Atsuko TOMINAGA**, Chiharu KOGO***

We tested and evaluated the effectiveness of a blended distant-learning course intended for third-year junior high school students under the trade name EVERES. In this study, we compared the difference in scores of written pre- and post-tests between two student groups: students who took the EVERES course and students who did not. In addition, we investigated which elements of EVERES accounted for the difference. The results of the comparison between the two groups showed that the difference in the scores of the students taking EVERES was larger positively with statistical significance than those who did not. It is suggested that taking preliminary preparatory video lessons and placement tests encourage enthusiastic and active participation in following synchronous interactive lectures, thus improving test performance.

キーワード：同期型 e ラーニング, 非同期型 e ラーニング, 中学生, 家庭学習, 予習, 学習効果

1. はじめに

e ラーニングによる教育が企業内教育で広まりつつある⁽¹⁾。これと並行して、大学院や大学でも e ラーニングを活用した授業が実績を積み重ねている^{(2)~(6)}。今後、e ラーニングの利用は、社会人や大学生だけでなく、高校生や中学生にも広まっていくだろう。とりわけ、学校の時間外での教育、たとえば塾や予備校で e ラーニングが使われる可能性が高くなっていくだろう。なぜならば、自宅から塾や予備校に通わせるのは家族の負担が大きいいため、もし e ラーニングによって家庭内で学習ができるのであれば、時間的にも経済的にも有利だからである。本研究は、中学生を対象とし

た e ラーニング学習システムを実践し、その知見をまとめようとするものである。

e ラーニングを同期型と非同期型に分類すると、一般的な比較として、非同期型 e ラーニングでは、個別の学習者の自由な時間帯に学習を進められるなど、e ラーニング特有の有利な点がある。その反面、学習者が孤立する、学習意欲がわかない、途中で挫折しやすいなどの欠点が挙げられる⁽⁷⁾。

一方、同期型 e ラーニングでは、同時刻に e ラーニングにアクセスしている学習者の存在がわかるため、臨場感が高く、学習者の孤立を防ぐことができると考えられる。他の学習者の存在によって、学習が動機づけられる可能性も高いだろう。また、学習時間も

* 株式会社ベネッセコーポレーション (Benesse Corporation)

** 早稲田大学ライティング・センター (Writing Center, Waseda University)

*** 早稲田大学人間科学学術院 (Faculty of Human Sciences, Waseda University)

受付日：2011年5月2日；再受付日：2011年7月25日；採録日：2011年9月15日